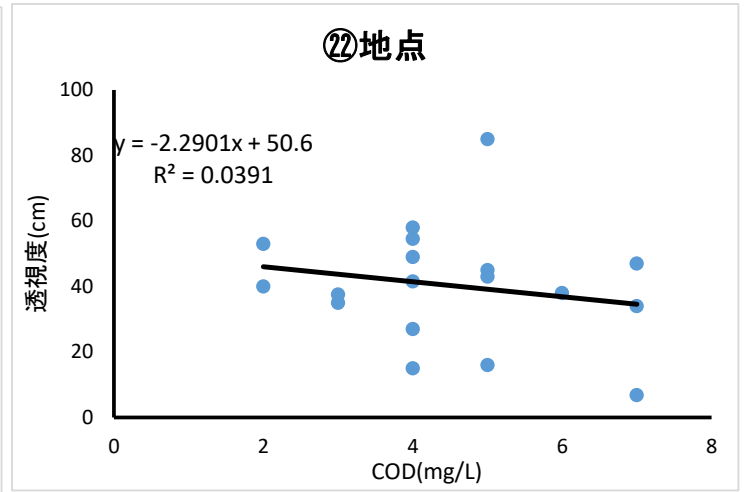
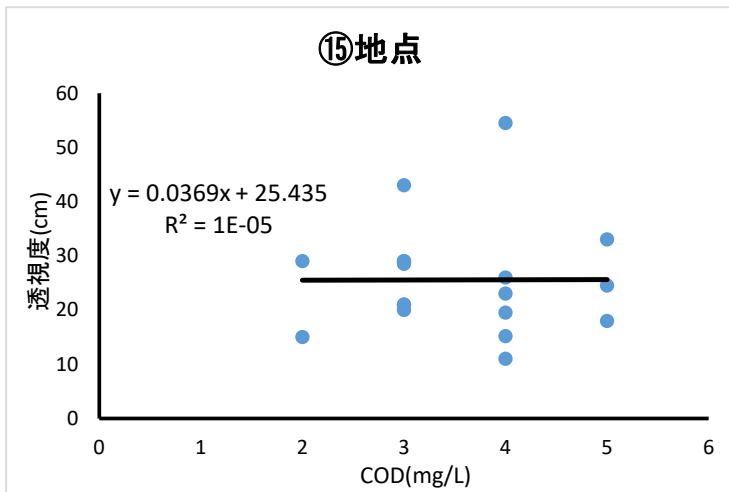
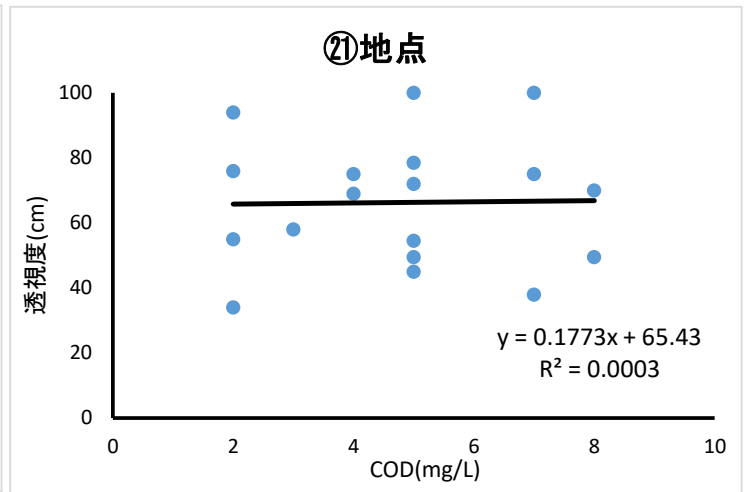
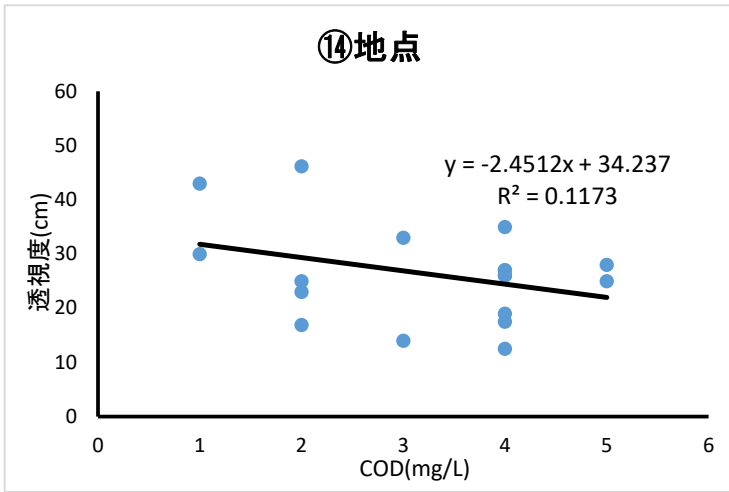


水質モニタリングデータのうち水質変動の分かりやすいCOD値と透視度についてグラフ化しました。

新型コロナウイルスに伴う緊急事態宣言等で水質データは2020年3月、5月、6月、7月、9月は欠測されているため除いてグラフ化しています。

一般的に自然界の水質は冬期が比較的良く、夏期は比較的悪化する傾向が見られるが、①④①⑤地点の油が淵内は水量が大きいせいもありCOD値、透視度共に大きな変動は見られず、油が淵流入農耕水である②①②②②③地点では季節的な変動の傾向が見られる。これらは油が淵周辺一帯が農耕地であることと流入水路の水量が少ないためその影響が出やすくなることが要因と考えられる。



通常COD値と透視度には負の相関関係が見られることから、各地点毎にその相関を調査しました。その結果いずれの地点からも相関関係はみられなかった。(⑳地点が若干の相関が見られるのみ)

これは透視度が高くて一概に水質が良いということが言えない状況であることが判る。それは溶存(溶け込んでいる)している汚濁物質に影響することが考えられる。

※グラフ内のR2は相関係数で1に近いほどその相関関係が高いことを示す。

